

フォークリフト運転技能講習

北野 幸子 (生物圏科学研究科部門)

1. 目的等

附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターでは、飼料の運搬にフォークリフトの運転が必要である。労働安全衛生法では、最大荷重が1トン以上のフォークリフトの運転の業務には、フォークリフト運転技能講習を修了した者でなければ業務に就かせてはならないことを規定しており、したがってセンターのフォークリフト(最大荷重2トン)運転の業務にはフォークリフト運転技能講習の受講が必要となる。

2. 期間・場所

期間：(学科)平成17年4月7日、(実技)12日～14日

場所：(学科)林業ビル、(実技)広島県労働基準協会連合会志和教習所

3. 参加者等：(学科)約50人、(実技)19人

4. 研修内容

フォークリフトの概要・機能、フォークリフトの走行に関する装置の構造及び取扱いの方法に関する知識、フォークリフトの荷役に関する装置の構造及び取扱いの方法に関する知識、フォークリフトの運転に必要な力学に関する知識、災害事例、関係法令、フォークリフト運転の実技講習

5. まとめと感想

フォークリフトで安全に作業するためには、前方後方の確認、点検等が重要である。危険な事故を起こさないためにも、講習で習ったことに注意して日々の業務を行っていききたい。

玉掛技能講習

北野 幸子 (生物圏科学研究科部門)

1. 目的等

附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターでは、飼料の運搬にクレーンを使用する。労働安全衛生法では、最大荷重が1トン以上のクレーンの玉掛業務には、玉掛技能講習を修了した者でなければ業務に就かせてはならないことを規定しており、したがってセンターのクレーン(最大荷重1トン)の玉掛業務には玉掛技能講習の受講が必要となる。

2. 期間・場所

期間：(学科)平成17年4月19日、20日、(実技)21日

場所：(学科・実技)広島県労働基準協会連合会志和教習所

3. 参加者等：(学科)約60人、(実技)9人

4. 研修内容

クレーンに等に関する知識、クレーン等の玉掛に必要な力学に関する知識、玉掛用具の選定及び取扱い、玉掛の方法及び合図の方法、関係法令、玉掛実技の方法

5. まとめと感想

玉掛作業においては、荷を安定してつること、クレーン運転者への合図、指差呼称などが重要である。玉掛に関連する業務では死亡事故が多く、それを防止するために、今回の講習で学んだことを生かしていきたい。

改正放射線障害防止法施行直前講習会

木庭 亮二 (理学部等部門)、辻村 智隆 (医学部等部門)

1. 目的等

平成16年6月に公布された改正放射線障害防止法の施行が平成17年6月1日にせまっており、広大においても予防規程の改定などの必要が出てきた。そのため、改正法の内容や具体的な対応を確認するため参加した。(木庭)

近年、放射性同位元素や放射線の利用は、医療及び工業等の広い分野にわたり、その利用形態も多様化し、産業、経済の発展及び国民福祉の向上に貢献している。また、国では放射性同位元素の使用等を取り巻く社会経済情勢の変化に対応し、規制等の合理化や新規制度の創設等所要の措置を講ずるため、放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律の改正が平成16年6月2日公布され、平成17年6月1日までに施行すべく準備が進められている。「改正放射線障害防止法」が施行される直前に考慮すべき事項の確認、及び「改正放射線障害防止法」について、その内容を周知することを、この講習会は目的としている。(辻村)

2. 期間・場所

期間：平成17年5月11日、12日

場所：よみうり文化ホール(11日)、KKRホテル博多(12日)

3. 参加者等

200名以上。広島大学より他に、自然科学研究支援

開発センターの松嶋亮人助手が参加。(木庭;よみうり文化ホール)

参加者は、放射性同位元素等を取り扱う事業所、放射線安全委員、放射線施設責任者、施設管理責任者、安全管理責任者等の事業所幹部や放射線取扱主任者、放射線業務従事者等である。福岡会場であったため、九州地区関係者が多く、参加者は300名位であった。技術センターから辻村智隆(医学部等部門)と北川和英(原爆放射線医科学研究所)が参加した。(辻村;KKRホテル博多)

4. 研修内容

(1) 国際基準値の導入に伴う規制の合理化、安全性の一層の向上を踏まえた改正放射線障害防止法の概要

(2) 改正法令施行後の申請・手続きについて

(3) 質疑応答

5. まとめと感想

改正放射線障害防止法の施行に向けた最新の検討状況についての情報を得ることができた。また、最近の安全管理上の問題点等も挙げられ、一層の徹底を再認識させられた。法改正後の実務面での対応についても、いくつか具体的なものが示され、参考になった。(木庭)法令改正前でもあり、改正後の各放射線施設の対応について、白熱した質疑応答があり、医学部RI研究共同施設の改正後の措置について、情報を得た。たいへん有意義な講習会であった。(辻村)

小型車両系建設機械特別教育

北野 幸子 (生物圏科学研究科部門)

1. 目的等

附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターでは、毎日の除糞作業などの業務にトラクタショベルを使用している。また、バックホウの運転が必要な業務もある。これらの機械は機体質量が3トン未満であるため、運転には小型車両系建設機械特別教育を受講することが定められている。

2. 期間・場所

期間：平成17年5月12日

場所：エス・シー・エム教習所(株)広島教習所

3. 参加者等：4人

4. 研修内容

小型車両系建設機械の基礎知識、原動機及び油圧装

置、走行装置の構造・機能、走行装置の取扱い、作業装置の構造・機能、作業装置の取扱い、建設機械の輸送、建設機械の点検・整備、安全運転の心得、力学及び電気

5. まとめと感想

今回の特別教育では、実技講習で実際にバックホウの運転をしたが、少ししか乗る時間がなかったため、実際に業務を行うためにはさらに練習が必要である。習った基本操作をもとに、安全な作業を心がけたい。

第82回日本生理学会大会

柿村 順一 (医学部等部門)

1. 目的等

職務遂行に必要な基本的、一般的知識及び新たな専門的知識等を習得することを目的とし、参加した。

2. 期間・場所

期間：平成17年5月18日～20日

場所：仙台国際センター

3. 参加者

生理学分野の大学教職員、学生及び企業の研究者

4. 研修内容

「テトロドトキシン非感受性ナトリウムチャンネル、 $Na_v1.9$ 、において観察される一過性電流増大の解析」、
「マウス後根神経節ニューロンの活動電位発生におけるTTX-感受性及びTTX-非感受性ナトリウムチャンネルの機能的役割」の2題でポスター発表を行った。また、下記のシンポジウムを聴講した。

- ・疼痛発生のメカニズムを探る—末梢から脊髄まで—
- ・高次中枢における痛覚情報処理機能解明の進歩
- ・レセプターとチャンネルのダイナミクスと細胞機能

5. まとめと感想

ポスター発表において、他の研究者との質疑応答を行い、意義深い討論ができた。さらに非常に有意義な助言も得られた。また、シンポジウムの聴講により、最新の研究に触れることができ、業務を遂行していくうえで、有意義な情報、知識を得ることができた。

ガスクロマトグラフ/質量分析計(GC-MS)トレーニングコース

西田 まなみ (医学部等部門)

1. 目的等

日常業務の一つとして、ガスクロマトグラフ/質量分析計 (GC-MS) による薬毒物分析を行っている。研究室の教員に教わりながら分析に携わってきたが、基礎や理論について一から学び、業務に必要な知識や技術の習得を目的として参加した。

2. 期間・場所

期間：平成 17 年 5 月 24 日～26 日

場所：横河アナリティカルシステムズ (株) トレーニングセンター大阪会場、金陵電気 (株) トレーニングセンター

3. 参加者等

市水道局、県環境保健センター、大学、民間企業等、分析に携わっている方々

4. 研修内容

ガスクロマトグラフ/質量分析計 (6890GC/5973MSD) の基本原理について、5973 オペレーション (ケミステーションバージョン) トレーニングテキストを参考に講師が説明を加えながらの講義を受けた。また、システムの始動から定性、定量、自動分析等の基本的な操作やメンテナンスについて、実習用トレーニングテキストを参考に 2 人に 1 台の GC-MS を使って実習を行った。

5. まとめと感想

日頃、機器を使って分析をしていたが、トレーニングを受けたことで、これまで行ってきたことが理論的に理解できた。GC-MS の機能の一部しか利用していなかったが、機能全般を理解することにより、検量や報告書作成等の応用的活用ができるようになった。更に、機器の保守・管理ができるようになった。

日本組織培養学会第 78 回大会

阿武 久美子 (医学部等部門)

1. 目的等

組織培養及びその関連領域の研究に従事する研究者・技術者による歴史ある学会であり、本年は広島大学大学院医歯薬学総合研究科の岡本哲治教授を世話人として広島で開催された。筆者は細胞培養を日常業務として行っており、本学会において、業務で得られた知見の発表と、新たな情報の取得を主目的とし参加した。

2. 期間・場所

期間：平成 17 年 5 月 26 日、27 日

場所：広島国際会議場

3. 参加者等

日本組織培養学会員

4. 研修内容

シンポジウム・口頭発表・ポスター発表の総計 250 題が設けられた。シンポジウムでは昨今の分子生物学の発展を支える「細胞培養」の温故知新をテーマに様々な機関より提案・報告がなされた。内容については、学会の URL: <http://jtca.umin.jp/> に詳しい。筆者は、「ヒト血管内皮細胞の老化と VEGF の発現変化」の題で口頭発表を行った。

5. まとめと感想

現在、業務として行っている血管内皮細胞の培養に関して発表し、参加者から様々な意見を得た。また、シンポジストとして複数の細胞バンクからの参加者があり細胞の凍結維持について有用な情報を得た。生体組織から得た研究資源の維持管理業務についての重要性を再認識した。

平成 17 年度電子情報通信学会主催の情報ネットワーク研究会

京泉 敬太 (工学部等部門)、新開 薫 (医学部等部門)

1. 目的等

電子情報通信学会の情報ネットワーク研究会に参加することにより、情報通信技術分野の情報を取得することができる。また、参加大学情報生産科学研究科系の研究者や通信機器企業の開発研究者等の研究報告を視聴することにより大学・企業独自の最新情報通信方式が取得できる。

2. 期間・場所

期間：平成 17 年 5 月 26 日、27 日

場所：機械振興会館 (東京都港区)

3. 参加者等

参加大学の研究者・通信機器企業開発研究者での電子情報通信学会技術報告者、その他一般 (技術者・学生等)

4. 研修内容

無線ネットワーク、アドホックネットワーク、センサネットワーク、ユビキタスネットワーク及び一般

5. まとめと感想

これからの高速化通信に対応した無線ネットワーク

やユビキタスネットワークの視聴ができてたいへん有意義であったと思う。また、各通信企業からの技術報告があり、今後、採用されて施行されるかもしれない通信方式の仕組みや理論を実験分析したものを報告されており、理解ができて、各企業の努力が伺われた。一方、高速な無線 LAN での高速通信を行いながらも、無線 LAN エリア外では旧式な PHS を利用しての画像転送などを行うブロードバンド移動通信技術などの実証実験があり、ネットワーキング研究や最新の情報ネットワーク技術方式なども視聴でき、これからの時代には、シームレス通信方式導入は、必要不可欠な技術だと思った。

日本微生物資源学会第 12 回大会

川北 龍司 (先端物質科学研究科部門)

1. 目的等

日本微生物資源学会に参加することにより、本学の微生物遺伝資源保存室 (略号: HUT) が系統保存機関 (カルチャーコレクション, 以下略して CC とする) としての機能を維持するための最新の情報を収集及び交換し、職務をよりよく遂行するために役立つ。また、他機関の担当者との交流を深め、情報を得ることができる唯一の機会でもある。

2. 期間・場所

期間: 平成 17 年 6 月 20 日~22 日

場所: かずさアカデミアホール, NITE バイオテクノロジー本部

3. 参加者等

日本微生物資源学会個人会員, 機関会員 (CC) 関係者, 協賛会員 (企業) 関係者, その他一般。

4. 研修内容

(1) 総会, CC 委員会, 実務担当者会議討議

- ・各機関会員における事業報告
- ・機関会員の会費負担と学会会計報告
- ・JSCC カタログ最新版の刊行について
- ・BRC/JCM, MAFF, IFM, NIES, NITE-NBRC における菌株の在庫管理について
- ・実務担当者会議の運営について

(2) 学会発表, シンポジウム, NITE-NBRC 見学会研修

- ・微生物に関する最新の研究成果の発表 (講演及びポスター)

- ・各カルチャーコレクションの紹介と活動報告 (ポスター) に参加

- ・バイオテクノロジーシンポジウム「微生物資源の産業利用」

- ・NITE-NBRC における菌株の分離・保存施設の見学

5. まとめと感想

国内の主要なカルチャーコレクションの多くは関東地方にあり、本学においてはその動向を知ることがなかなか難しく、本学会が他の CC や微生物資源にまつわる最新の情報を知る唯一の機会であるため、毎回非常に有意義な学会である。特に今回は他の CC における具体的な保存・分譲業務の内容の紹介ばかりでなく、我が国やアジアの微生物資源にまつわる国際的戦略施設である NITE の見学にも参加できたため、今回の学会、見学会で得られた情報は業務の遂行に大変役に立つものが多く非常に有意義であった。ポスター発表については本学の CC である HUT の現状を紹介できたことと、他の CC における活動状況を知ることができ、今後の業務の参考となった上に、他の CC の研究者や担当者との交流も深めることができたことが大変有意義であったと思う。

平成 17 年度情報セキュリティ担当者研修

中川 敦 (情報メディア教育研究センター等部門)

1. 目的等

今や大半のコンピュータが何かしらのネットワークに接続されている。その為、コンピュータを扱う際にはネットワークの知識を持っている事が望ましい。そこで今回は情報の漏洩防止について学ぼうと思い、本研修に参加した。

2. 期間・場所

期間: 平成 17 年 7 月 6 日~8 日

場所: NTT 西日本研修センター

3. 参加者等

大学図書館, 企画広報室, 情報センター等, 情報の管理業務に従事している職員

4. 研修内容

インターネットセキュリティ概要, セキュリティ対策, 個人レベルでのセキュリティ対策, 暗号技術 (セキュリティを確保するための環境構築技術), パイオメトリクスによる認証, IC カードの利用, 著作権保護と

電子透かし、セキュリティガイドライン

5. まとめと感想

本研修では情報保護全般にわたる内容について学ぶことができた。研修全体を見ると、まずは心構えについての話、続いて技術的な話、そして最後に法的な話という流れであった。中でも暗号技術の話に最も重点が置かれており、この技術が情報の漏洩防止に非常に大きな役割を果たすことがわかった。しかし、どのような事にも言えることではあるのだが、道具や技術はそれらを正確に扱う人間が居て初めて役に立つものである。最も大切なことは「自分が情報を守るのだ」という各自の心構えであると言えよう。より一層セキュリティについて興味を持たた有意義な研修であった。

医療薬学フォーラム 2005

第 13 回クリニカルファーマシーシンポジウム

湯元 良子（医学部等部門）

1. 目的等

日本薬学会が主催する医療薬学分野のシンポジウムであり、医療薬学・薬学教育の明日を創造する議論が繰り広げられることを期待し、業務に必要な知識や技術の習得を目的として参加した。

2. 期間・場所

期間：平成 17 年 7 月 16 日、17 日

場所：鹿児島市民文化ホール

3. 参加者等

主に病院薬剤師、開局薬剤師、大学薬学部関係者（参加者約 1800 人）

4. 研修内容

特別講演として、「病院薬剤師が生き残るために」、「個人情報保護法と薬剤師」、シンポジウムとして「薬学教育維新、薬学教育はどうなるのか」、「再び、医療安全を担保する薬剤師の役割について考え」、「褥瘡治療における薬剤師の役割」、「基礎薬学の医療への応用」、「今、開局薬剤師は何が求められ、何をなすべきか」、「チーム医療で活かせる薬剤師の専門性」の講演が行われ、また 290 演題が一般ポスター発表された。

また、自分自身も「我が国及び欧米におけるブロー氏液処方の比較検討と調製法に関する提言」という題目でポスター発表を行った。

5. まとめと感想

1 時間の示説時間を 30 分以上超えるほど次々と質問に來られた。ブロー氏液の調製は、どこの施設でも難渋しておられたようで、反響の大きさに驚き、励みとなった。われわれの提言した調製法がひとつの解決策になり、ひとりでも多くの患者の治療に役立てばよいと考えている。

また特に今回は、法律家（弁護士）としての立場から、「個人情報保護法と薬剤師」という題目で講演され、医療過誤、個人情報の扱い等についての知識も得ることができたことは収穫であった。

刈払機取扱作業安全衛生教育講習会

山城 英和、竹田 重寿（生物圏科学研究科部門）

1. 目的等

附属瀬戸内圏フィールド科学教育センターでは、草刈作業に刈払機を使用している。刈払機による作業は、立ち姿勢や歩行、機械の運搬を伴い、転倒や刈刃の跳ね返りなどにより刈刃に接触した災害が多く発生していることから適切な取り扱いが求められている。そこで今回、刈払機取扱作業安全衛生教育講習会を受講した。

2. 期間・場所

期間：平成 17 年 7 月 19 日

場所：広島県立林業技術センター

3. 参加者等：60 人

4. 研修内容

学科教育、刈払機に関する知識、刈払機を使用する作業に関する知識、刈払機の点検及び整備に関する知識、振動障害及びその予防に関する知識、関係法令、実技教育、刈払機の作業等

5. まとめと感想

刈払機による作業は振動による障害や転倒、刈刃の跳ね返りなどにより、刈刃に接触した災害が多く発生している。刈払機の適切な取り扱い方法を学んだ事により、労働災害の防止に役立てたい。

大学等放射線施設協議会 第 3 回中国四国地区研修会

辻村 智隆（医学部等部門）

1. 目的等

改正放射線障害防止法令も出揃い、その解釈についても、ほぼ明らかに成りつつある。この研修会の内容は講演会ではなく、現状の状況理解について簡単に要

約して理解を統一し、管理区域外の使用に関して大学等放射線施設協議会で検討している内容と、併せて広島大学内の事業所の対応状況などを話題提供する。

また各大学での対応状況、実施しようとする場合の疑問点、問題点などについて提供して頂いて話し合い、お互いに勉強することを目的とした。

2. 期間・場所

期間：平成 17 年 7 月 22 日

場所：広島大学医学部総合薬学科 第 8 講義室

3. 参加者等

中国・四国地区の大学等の放射線施設の放射線取扱主任者及び実務管理担当者、約 60 人。

4. 研修内容

- ・管理区域外における放射性同位元素の使用に係る対応について
- ・管理区域外における放射性同位元素の使用の問題点
- ・管理区域外における放射性同位元素の使用にかかわる大学等放射線施設協議会の取り組み
- ・中国諸国地区大学の状況と質疑応答

5. まとめと感想

この研修会の事務局も担当していることもあり、中国・四国地区の大学等の放射線施設の放射線取扱主任者及び実務管理担当者の方々と情報交換がかなり出来、非常に有意義な研修会であった。

第 21 回大学等環境安全協議会技術分科会

坂下 英樹（工学部等部門）

1. 目的等

大学等における環境安全管理の方法、化学物質等の管理の方法、及び有害な廃棄物の処理技術に関する研修と、それらに関する諸情報の交換を行うこと。

2. 期間・場所

期間：平成 17 年 7 月 28 日、29 日

場所：徳島大学長井記念ホール

3. 参加者等

環境安全管理、化学物質等の管理、廃棄物の処理に携わる大学等の教職員、及び関係企業から、計約 160 名。広島大学からは他に環境安全センターの教員 2 名。

4. 研修内容

- ・特別講演「安全はリスクの考え方をベースに身近な

表示と訓練から」：リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションの 3 つの要素からなるリスクアナリシスについて。

- ・パネルディスカッション「大学の化学物質管理と CSR 社会」：大学における CSR への取り組みについて。化学物質管理、環境保全、安全衛生についての教育も重要。
- ・一般講演「茨城大学の 4S-R 運動について」：整理・整頓・清掃・清潔・規則。不用品の廃棄などにより遵法状況を改善し、安全の確保と作業環境の向上を図っている。

- ・一般講演「実験研究設備の運用事例と効果的対策」：多数のドラフトを省設備・省エネルギーで運用するシステムについて。（50 台のドラフトを約 18 台相当の排気設備で運用）

- ・一般講演「大学等における環境教育と CSR 確立のための一考察—企業の環境教育及び CSR 調査結果から—」：専門部署を設置。階層別教育と職種別教育。社内講師による集合教育と e-learning を既存の社内教育・研修の一環として実施。

- ・特別講演「徳島県における野生生物保全への取り組みと徳島大学—研究と施策・事業と人との連環—」：植生分布調査と科学的分析により、長期計画的な環境保全を地域住民も参加した形で行っている。

- ・技術報告「鉄粉法廃液処理施設におけるセレン系廃液処理の試み」：水酸化鉄（III）共沈処理でほとんど除去されない六価のセレンを鉄粉法処理設備に使用している特殊還元鉄粉を用いて四価のセレンに還元して処理を試み、低濃度廃液ながら環境基準値以下に除去。

- ・技術報告「有機廃液管理体制の確立に向けて」：岡山大学は年 2 万 L の有機廃液を外部委託化し、分類を 3 から 8 へ増やし、6 千 L の危険物倉庫（19.62 倍）を設置した。容器は UN 規格合格品とした。利用手続きと容器の管理を電子化する予定。

- ・事例報告「濃厚廃液処理装置における定期メンテナンスについて」：NEC の装置の定期点検事例について。定期メンテナンスにより耐用年数が延びるなどのメリットがある。

- ・事例報告「同和式鉄粉法廃液処理装置のメンテナンスについて」：点検実施状況。

5. まとめと感想

引き続き労働安全衛生対応と化学物質管理が課題だ

が、環境報告書と CSR の環境側面も話題になった。化学物質等環境安全対策の手引きが作成され今年度末に配布されるとの情報。岡山大学の危険物保管庫新設は本学の参考になる。

伐木の業務にかかる特別教育

積山 嘉昌（生物圏科学研究科部門）

1. 目的等

附属瀬戸内圏フィールド科学教育センターでは、広大な敷地の中で特に、道沿いの倒木や、かかり木などを伐木するのに伐木業務資格が必要となる。

2. 期間・場所

期間：平成 17 年 8 月 1 日，2 日

場所：広島県立林業技術センター

3. 参加者等：60 人

4. 研修内容

(1) 学科：伐木作業に関する知識，チェーンソーに関する知識，振動障害及びその予防に関する知識，関係法令

(2) 実技：伐木の方法，チェーンソーの操作，チェーンソーの点検及び整備

5. まとめと感想

伐木は事故率が高い作業である。慣れると気が緩み事故につながる。常に基礎基本を心がけて作業をしていきたい。

平成 17 年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修

向井 誠二，塩路 恒生（理学部等部門），柿村 順一，西田 まなみ，宮原 秀満（医学部等部門），積山 嘉昌（生物圏科学研究科部門），田井 里佳（原爆放射線医科学研究所部門）

1. 目的等

・職務遂行に必要な基本的，一般的知識及び新たな専門的知識，技術等を習得することを目的とし，参加した。（柿村）

・技術者間の交流及び研修において技術向上を図る。（宮原）

・職務遂行に必要な知識や技術等を習得し，技術職員としての資質の向上を図ることを目的として参加した。併せて，他機関の技術職員と交流し，意見交換するこ

とで，情報の共有化を図った。（西田）

・中国・四国地区国立大学法人等の技術職員を対象にその職務に必要な基本的，一般的知識及び新たな専門知識，技術等を習得し職員としての資質の向上を図ることを目的として行われ，今回生物系Iを受講し修了することが出来た。（向井，塩路，積山）

・本研修に参加することにより，職務遂行に必要な基本的，一般的知識及び新たな専門的知識・技術等を修得し，職員としての資質の向上を図る。また，他機関の技術職員との交流を深め，情報を得ることも併せて目的とした。（田井）

2. 期間・場所

期間：平成 17 年 8 月 24 日～26 日

場所：島根大学

3. 参加者等

中国・四国地区の国立大学法人及び独立行政法人国立高等専門学校の技術職員

4. 研修内容

(1) 全体講義

- ・法人化した高等教育機関の技術職員に期待するもの
- ・産学連携によるベンチャーの立ち上げ
- ・核磁気共鳴装置（MRI）のしくみと原理
- ・宍道湖，中海の自然を再生するには？
- ・リアルタイム PCR と等温核酸増幅法について

(2) 分野別講義

- ・植物色素“アントシアニン”とは（向井，塩路，積山）
- ・遺伝子組み換えについて（西田，田井）
- ・法医学分野の個体識別（柿村，西田，宮原，田井）

(3) 分野別実習

DNA 抽出，PCR 法，アガロース電気泳動法（柿村，西田，宮原，田井）

5. まとめと感想

担当業務に関わる分野のみならず，幅広い分野における専門的知識及び技術を受講することができた。さらに，今後の大学が求められることについて改めて認識することができ，非常に有意義な研修であった。また，他機関の技術職員と交流・意見交換できたことも収穫であるとともに，刺激となった。（柿村）

全体講義を通じて関連分野の新しい知見が得られた事と，分野別実習において，今盛んに行われているモ

レクチャーの手法を実習出来た事で大変有意義な研修であったし、今後、研修で得られた事を業務に生かしたい。(宮原)

本研修では、多岐にわたる専門的知識・技術について学ぶことができた。特に、遺伝子関連の講義・実習は業務に大きく関わり、大変参考となった。また、他機関の技術職員と技術・情報を交換することができたことは、今後の機器の操作・管理を行う上で、大きな収穫となり、大変有意義であった。(田井)

「産学連携によるベンチャーの立ち上げ」「宍道湖・中海の自然を再生するには？」は、教育・研究を主としてきた大学が、社会との連携・社会への還元に重きを置くという具体的な内容であった。我々は、研究以外にNPO法人を立ち上げ、特許も取得しており、医療現場における薬毒物検査体制を構築している。研修を受けて、これらは国立大学法人として求められていることが確信でき、これからの働きに大きな励みとなった。(西田)

今回の研修は2泊3日の研修であったが、最初に行われた全体講義5講義のうち3講義は分かりやすく今回の研修では有意義であった。他の2講義については、今の職場から全く分野の違う講義であったため、理解し難かった。また「高等教育関係の技術職員に期待するもの」では、知識と研究の知的資源がいかに生かされ社会との繋がりがどうあるべきか、その中での技術系職員の役割とかを参加者全員が我がことのごとく真剣に聞き入っていた。また、大学における知的基盤社会の構築と社会貢献について技術系職員にも大いに参考となった。後半は、分野別講義Ⅰの「植物色素”アントシアニン”とは」であったが、島根大学にある本庄農場にて葡萄の果実採集により外観評価・物理特性的評価・化学特性評価(糖度・滴定酸含量・アントシアニン含量)など実際に検査などを行って作物(葡萄)の品質評価の仕方を学んだ。また技術研修は、ただ単に研修のみに終わらず、研修中や懇親会を通じて他の大学の技術系職員との対話の場であったり、情報交換の場であったり、職場の悩み等様々な面で親交を図る絶好の場でもあるため、もっと積極的に他大学との交流を図るべきだと思った。今回の研修には施設訪問等は無かったが、本来自分の興味有る施設訪問等があれば、より有意義であったと思う。島根大学は広島大学

と比較すると規模こそ小さいが、キャンパス全体に島根大学独特の違った味わいが有った。(向井、塩路、積山)

第17回情報処理センター等担当者技術研究会参加報告

吉田 朋彦(情報メディア教育研究センター等部門)

1. 目的等

各大学の情報系技術職員が最新の技術やシステムの管理運用について、研究発表、意見交換、及び情報収集をすることを目的としており、毎年全国から多くの技術系職員が参加している。今回は本学からも研究発表を行った。

2. 期間・場所

期間：平成17年9月8日、9日

場所：琉球大学研究者交流施設50周年記念館

3. 参加者等

全国28大学、50名。うち広島大学からは吉田と松尾教務員が参加した。

研究報告は13機関、現状報告は9機関からあった。

4. 研修内容

情報システムの更新を行って間がない機関からは新システムの解説や新たな問題点の考察などが、それ以外ではe-learningの現状や課題、SPAMメール対策や不正侵入対策などのセキュリティ問題に関連する技術発表や議論が活発に行われた。

広島大学からはSPAMメール対策、個人情報保護、学生へのメール一斉通知機能の全てを実現した新システムでのメールアドレス登録システムについて発表し、関心を引いた。

5. まとめと感想

どこの機関でも学内に対して比較的似通った情報サービスを提供しているが、その内容は意外と各大学で異なっており、特にファイアーウォールやウイルススキャンなどのセキュリティ対策では考え方や実現の方法が大きく異なっていることがわかった。

我々の発表については、すでに大半の学生が利用している携帯メールのアドレスとの使い分けや、自由に設定変更できることによる新たな資源の枯渇や伝達方法の混乱などに対する懸念についての質問が多かった。携帯への転送も自分で設定できること、一度使用した

メールアドレスは一定期間凍結後再利用可能なことなどを説明し、よく考えられたシステムであるとの印象をもってもらえたようであった。

研削といしの取り替え等に関する特別教育講習

三原 修（工学部等部門）

1. 目的等

工学部第四類（建設・環境系）で開講される「設計生産プロジェクト」では、PBL（Project Based Learning）の一環として、学生がペーパーバイクを設計・製作する。その中で使用する工具にはディスクグラインダ（といしを回転させて工作物を研削する工作機械）が含まれるが、研削といしの取り替えならびに試運転については、労働安全衛生法及び安全衛生特別教育規定による特別教育を受けた者でなければ、その業務に就くことができない。そこで、この業務（工具の管理）をおこなうために、標記の特別教育講習を受講した。

2. 期間・場所

期間：平成17年 9月13日、14日

場所：ビューポートくれ2F 呉市きんろうプラザ大会議室

3. 参加者等

実際に自由研削や機械研削のグラインダを使用する業務（またはその指導）に携わる方

4. 研修内容

学科教育（※ 実技教育は各事業所で実施）

- (1) 研削盤に関する基礎知識
- (2) 研削といしに関する基礎知識
- (3) 研削といしの取り付け具に関する知識
- (4) といしの覆い、保護具等に関する知識
- (5) 研削油剤に関する基礎知識
- (6) 研削といしの取り付けと試運転の方法
- (7) 災害事例と関係法令

なお、講習の最後に、上記の知識を確認するための試験が実施された。

5. まとめと感想

研削といしを正しい方法で管理しなかったり、グラインダ取り付け時の確認等を怠れば、といしの破壊による重大な事故を引き起こす。このため、といしの取り扱いに関する3原則「ころがすな、落とすな、ぶつけない」を遵守し、取り付けの際には、安全確保による

事故防止に努めたい。

第64回日本癌学会学術総会

木野村 愛子（原爆放射線医科学研究所部門）

1. 目的等

日本癌学会が主催の学会で今回は「より個別的な治療を目指して」というテーマを掲げ、開催された。患者によって抗癌剤の効き目が有効な人もいれば副作用に悩まされる人もいる。こうした違いは、遺伝子の働きに差があるためとされ、最近の研究で患者に応じた治療が可能になってきた。日々の仕事では専門的な一分野しか見ておらず、もっと広い視野から、世界的に活躍しておられる先生方の講演を聴くことにより業務に必要な知識や技術の取得することを目的として参加した。

2. 期間・場所

期間：平成17年9月14日～16日

場所：ロイトン札幌、北海道厚生年金会館、札幌市教育文化会館、札幌プリンスホテル

3. 参加者等

医師、大学等の研究者、学生等

4. 研修内容

仕事に関連のある遺伝子の修復、ゲノム不安定性の分野を中心にワークショップ、シンポジウムに参加して見識を広めた。

5. まとめと感想

臨床から基礎研究まで多岐にわたる演題から仕事に役立つものを選択して幅広い分野における研究を見聞し、非常に有意義であった。同時にもっと勉強なくてはと反省もした。

平成17年度機器・分析技術研究会参加報告

新谷 博志、藤高 仁（理学部等部門）、下岡 丈次（先端物質科学研究科部門）、岩谷 秀秋（工学部等部門）

1. 目的等

来年度開催される平成18年度機器・分析技術研究会のための運営、進行などの情報収集と次期開催大学（広島大学）のアナウンス及び安全衛生に関する口頭発表、機器分析に関するポスター発表を行うため。

2. 期間・場所

期間：平成17年9月15日、16日

場所：岩手大学工学部テクノホール

3. 参加者等

全国 42 大学・高専・研究所，216 名 うち広島大学からは 4 名が参加

4. 研修内容

- ・次期開催地（広島大学）のアナウンス
- ・次期開催地（広島大学）の案内ブース
- ・口頭発表 1 件（全体で 33 件，安全衛生に関するもの 9 件）
- ・ポスター発表 1 件（全体で 40 件，安全衛生に関するもの 4 件）

5. まとめと感想

この度の研究会も参加人数及び発表件数も順調に増え盛んに開催された。

次期開催大学として，アピール用に持っていった技術報告集，広大キャンパスマップなどすぐになくなり，機器分析技術研究会への関心の大きさを感じた。

安全衛生部門での口頭発表では，300 席の会場がほぼ満席となり法人化後の活動として，大変感心があることが伺えた。現状では巡視活動は，ほとんど技術職員が行っており，今後の取り組みとして興味深い発表が多くあった。また，ポスター発表では，各ポスターの前では活発な質疑・討論が行われ盛況だった。開催機関である岩手大学技術職員の皆様が一致団結し，さまざまなアイデアを出し合い，苦勞を乗り越えた結果だと感じられた。

次期開催大学の利点を生かし，技術研究発表会（口頭発表，ポスター発表など）や技術情報交換会の交流の機会を通して，全国から参加された技術職員に，広島大学技術センター職員の活動をアピールしたいと思った。また，この会を運営・進行するにあたり，多くのスタッフの協力が必要であると感じた。

刈払機取扱作業安全衛生教育講習会

北野 幸子，積山 嘉昌（生物圏科学研究科部門）

1. 目的等

附属瀬戸内圏フィールド科学教育センターでは，敷地管理のため草刈を頻繁に行っている。作業中に転倒，刈刃の跳ね返りなどにより，刈刃に接触した災害が多く発生し，死亡災害に至ることもあり適切な取扱が求められている。そのため刈払機取扱作業安全衛生教

育講習会を受講した。

2. 期間・場所

期間：平成 17 年 9 月 20 日

場所：広島県立林業技術センター

3. 参加者等：31 人

4. 研修内容

(1) 学科教育

刈払機に関する知識，刈払機を使用する作業に関する知識，刈払機の点検及び整備に関する知識，振動障害及びその予防に関する知識，関係法令

(2) 実技教育

刈払機の取扱い，作業の方法，刈払機の点検・整備の方法等

5. まとめと感想

年間約 1 万人から労災が起きるほど事故率が高い作業である。常に基本を守りつつ業務を行っていきたい。

ブルカー・ダルトニクス ユーザーセミナー2005

田井 里佳（原爆放射線医科学研究所部門）

1. 目的等

本セミナーはブルカー・ダルトニクスからの最新情報・ノウハウの紹介，参加者間の情報収集の場として設けられ，個人の新たな知識の習得と共に得られた情報を所内へ提供することを目的に参加した。

2. 期間・場所

期間：平成17年9月27日

場所：新大阪ワシントンホテル

3. 参加者等

大学・企業などから150名程度

4. 研修内容

(1) 最新技術情報及び新製品の紹介

(2) 講演

- ・BLOTCHIPを用いたプロファイリングから同定まで
- ・CE/MSを用いた糖鎖構造解析
- ・Clinprotによるultraflex TOF/TOFの活用
- ・FT-ICR MSを用いたトップダウン・プロテオミクス

5. まとめと感想

本セミナーでは，プロテオミクスの最新技術・知識について学ぶことができた。特に，「Clinprot による ultraflex TOF/TOF の活用」は現在の業務との関連が大きく，今後の ultraflex 運用や技術支援の向上・発展に

大変参考になった。

第 15 回日本医療薬学会年会

池田 佳代, 湯元 良子 (医学部等部門)

1. 目的等

医療薬学の最近の進歩, 6 年制を目前にした薬学教育についてのシンポジウム・講演などから, 業務に必要な知識や技術の習得を行うことを目的として参加した。(池田)

日本における医療薬学領域の研究・教育に関する学会であり, 医療現場における問題点, 取り組み等に関する発表や, 薬学 6 年制に伴う医療薬学教育を如何にするかの議論が繰り広げられることを期待し, 業務に必要な知識や技術の習得を目的として参加した。(湯元)

2. 期間・場所

期間: 平成 17 年 10 月 1 日, 2 日

場所: 岡山コンベンションセンター, 岡山全日空ホテル, 岡山国際交流センター

3. 参加者等

病院・薬局の薬剤師, 大学薬学部関係者

4. 研修内容

「薬学教育 6 年制への熱き思い」「医療・介護現場に変革をもたらす新しい経管投薬法—簡易懸濁法の導入と課題—」また, 日常の業務に近いテーマとして「医薬品のライフタイムをどうマネジメントするか?」「抗菌薬投与方法を考え直す—PK/PD・安全性をふまえて—」などの教育講演・シンポジウムを聴講した。また, 800 題を超える一般ポスター発表がなされ, 熱心な討論が展開された。自分自身も, 広島大学技術センター報告集第 1 号に投稿した内容にデータを追加しポスター発表を行った。演題名「溶出試験法によるテオフィリン徐放製剤間の放出特性の比較—喘息患者のテオフィリン療法適正化への情報提供をめざして—」(池田)

「医療薬学の未来に翔(はばた)く」のテーマのもと, 「患者を中心としたチーム医療の中の薬剤師の関わり」「医療薬学教育のあり方」「患者の個別化した薬物治療への薬剤師の関わり」, また「創薬と薬剤師」, さらに「リスクマネジメントと薬剤師」等を中心に, 特別講演(5 演題)・招待講演(7 演題)シンポジウム(15 セッション)・口頭及びポスター形式(809 演題)での

発表が行われた。また, 自分自身も「院内製剤ブロー氏液及びその関連溶液の抗真菌作用」という題目でポスター発表を行った。(湯元)

5. まとめと感想

医療薬学の発展をめざして, 参加者が非常に熱心に聴講・討論をしており, 「熱い」想いを実感することができ励みになった。自分のポスターについても多くの方々からの質問・意見をいただくことができ, 今後の展開への参考となった。(池田)

2 時間の示説時間中, 次々と質問に来られ, ブロー氏液の調製法に関する質問が多く寄せられた。前回の学会同様, 持参した資料(20 部)はすぐに配布終了となり, 後日送付希望の方が 30 名近くに及んだ。実際に臨床で非常に効果があり, 副作用も少なかったという報告を聞き, 感激した。今後も臨床症例を集積し, 発表したいと考えている。臨床現場におけるリスクマネジメントや, 最新薬物治療, 治験などに関する発表が多くなされ, 非常に勉強になり, また刺激になった。特に今回は, 「6 年制薬学教育を考える—長期実務実習への取り組み—」というシンポジウムに参加し, 大学側として何をすべきかを考えることができたことは収穫であったと考える。(湯元)

第 32 回国立大学法人臨海・臨湖実験所・センター技術職員研修会議

山口 信雄 (理学部等部門)

1. 目的等

国立大学法人臨海臨湖実験所センターに所属する技術職員は, 臨海実験所所長会議及び所属する学部の方々のご理解とご支援により, 毎年秋に各実験所持ち回りで研修会議を開催しております。我々の実験所等は本学より離れた所に設置されているために, 情報の入手も遅れがちであり, 技術職員の定員が一名の所も多く, 一人職場故の職務上の悩みや, 実験・研究用動物の採集に関する情報を入手しにくい等の不都合を抱えております。そこで同じ業務を遂行している日本各地の臨海臨湖実験所センターの技術職員が集まって情報交換や業績発表を行い, 各地での臨海実験所運営・研究教育活動に役立てることを目的としております。

2. 期間・場所

期間: 平成 17 年 10 月 12 日~14 日

場所：筑波大学下田臨海実験センター

3. 参加者等

広島大学からは山口信雄（向島臨海）1名
他19名とOB3名、オブザーバー11名が参加

4. 研修内容

各実験所における近況報告や意見交換、並びに実験内容についての質疑応答。実験生物の生息地に関する情報交換と、採集・飼育方法についての検討。広島大学からは山口が「ヒガシナメクジウオの一般的生理・生態と食性等について」を口頭発表。臨海臨湖実験所センター所長会議議長との懇談により、今後の臨海実験所の運営と存在意義等について討論。機関誌「臨海・臨湖 No.22」についても報告があった。

5. まとめと感想

各地の実験所で行っている業務やその成果について活発な議論が行われた。それに加え、労働災害の時の事後対応や、それを未然に防ぐための手法等についても議論がなされ、非常に有意義であった。研究費の調達に関しては、今年度は4名（金沢大学・岡山大学・広島大学・琉球大学）が奨励研究を得ていることが判明した。今後も外部資金の獲得に向けて技術職員も参加することが推奨された。

日本岩石鉱物特殊技術研究会

石佐古 早実（理学部等部門）

1. 目的等

標記研究会は、岩石・鉱物・化石・構造地質・耐火物等の薄片・研磨片の製作及び試験に伴う試料調整に関与する専門技術者が、技術発表や情報交換等を行い、相互の技術開発や知識の高揚に努め、広く地球科学とその関連領域の研究に寄与することを目的として、大学・研究所等所属している部署及び教員・研究者の方々のご理解と支援により、年一回持ち回りで開催されています。また、来年度秋、本研究会を広島大学で開催するため、詳細な情報の収集も兼ねて出席しましたので報告します。

2. 期間・場所

期間：平成17年10月18日～20日

場所：筑波大学 大学会館 特別会議室（筑波大学生命環境科学研究科地球進化科学専攻）

3. 参加者等

大学・研究所等計26名

内、広島大学から石佐古早実、柴田恭宏の2名

4. 研修内容

(1) 記念講演：「まん・ぺい・らい ータイ国地質学事情ー」

(2) 総会：研究会の運営やその他案件や諸問題についての議論

(3) 技術発表：7件の発表（発表内容については、2年に一度出版される冊子『地殻』として公表）及び質疑応答

(4) 企画討論：焦点を絞った技術討論、テーマ「粘土鉱物含有試料の薄片製作について」

(5) 総合討論：日常業務における問題点・疑問点等の技術討論・情報交換

5. まとめと感想

各技術者の研究成果についての発表、情報交換等により、技術の向上や日常業務での問題点などの解決に繋げることができました。また、来年度の研究会開催に向けて、いろいろな方にお話をさせていただき、より詳細な部分についての情報が収集できました。来年度、本学開催の研究会を成功させ、実りのあるものになりたいと思っています。

第78回日本生化学大会

木下 恵美子、濁川 清美（医学部等部門）

1. 目的等

所属する研究室（総合薬学科医薬分子機能科学講座）での研究成果を発表するとともに、同じ研究分野の他の発表や、生化学全般の発表を見聞きし、情報の収集などを行うことを目的とした。（木下）

日本生化学会が主催する大会であり、「ポストゲノム時代の生化学」をテーマに開催された。国内外の第一線の研究者が参加することから、最新の生化学研究・技術についての情報が得られることを期待し、業務に必要な知識と技術の取得を目的として参加した。（濁川）

2. 期間・場所

期間：平成17年10月19日～22日

場所：神戸国際会議場、神戸国際展示場、ポートピアホテル

3. 参加者等

生化学関連の大学の研究者、企業の研究者など

4. 研修内容

「リン酸補足分子フォスタグの人工抗体としての利用法」というタイトルで12分の口頭発表と、同タイトルでポスター発表を行った。また、他の研究者の発表を視聴した。(木下)

「シグナル伝達研究」, 「脂質生物学研究」, 「プロテインキナーゼとホスファターゼ」等をテーマとしたシンポジウム, ポスターセッション等に参加した。(濁川)

5. まとめと感想

口頭発表とポスターでの質疑応答を通じて、自分の研究に関して、他の研究者と意義ある討論ができ、様々な助言を得ることができた。また、同研究分野の他者の発表では、様々な情報を得ることができた。また、生化学分野で、現在脚光を浴びる先端の研究にもふれることが出来た。本学会で学んだことは、研究室内でセミナーなどで報告し、今後の研究に生かせるようにしたい。(木下)

蛋白質-蛋白質相互作用, 蛋白質-脂質相互作用の新規測定法, イノシトールリン脂質の新規検出法等についての有用な情報を得ることが出来、業務に反映させたいと考えている。(濁川)

平成17年度放射性同位元素等取扱施設安全管理担当教職員研修

笹谷 晋吾 (原爆放射能医学研究所部門)

1. 目的等

大学等における放射性同位元素等の利用範囲の拡大や利用形態の多様化に伴い、放射線安全管理の徹底を図ることが重要になってきている。このため研修では実習を含めた最新の知識と放射線障害防止法改正に伴う情報等を習得し、得られた知見により教育・研究の進展及び施設周辺をもふくめた放射線の安全性の確保をはかることを目的とする。

2. 期間・場所

期間：平成17年11月10日, 11日

場所：東京大学アイソトープ総合センター教育訓練

3. 参加者等

全国の放射線管理に携わる大学等の教職員46名参加

4. 研修内容

(1) 講義等

- ・大学等における放射線安全管理の向上
- ・放射線障害防止法改正に対する大学での対応
- ・非密封RIの飛散と汚染, その防御
- ・放射線遮蔽の実際とシミュレーション

(2) 実習

- ・活性炭素繊維フィルターによる空气中放射性ヨウ素の捕集
- ・放射線遮蔽の実際(材質・多重層・ジオメトリー等の効果)

(3) パネル討論

管理区域外での下限数量以下の非密封RI使用への大学での対応

5. まとめと感想

放射線の安全管理について講義と実習の両面から学ぶことができ、今後の実務に貢献できる内容でとても有意義な研修だった。また、放射線障害防止法改正に伴う各大学等の取り組みや動向など放射線安全管理における最新情報、さらには放射線安全管理に携わる様々な立場の方と交流したことは今後放射線安全管理を行ううえで大きな財産になったと思う。

解剖・組織技術研究会第3回研修会

石原 博史 (医学部等部門)

1. 目的等

本会は解剖技術員の形態学分野における技術の伝承と発展を基本理念として解剖学会と連携して、会員相互の技術力の向上と復旧を図ることを目的として3年前に設立した技術職員の会です。

近年、処置室、人体系統解剖実習中の空气中ホルムアルデヒド対策が急務となってきており解剖実習内の空気の清浄化について討論されているところです。今回の研修会では、炭酸アンモニウム再注入による遺体及び解剖実習のホルマリン減量という最も関心がある演題で講演していただきました。

2. 期間・場所

期間：平成17年11月12日, 13日

場所：栃木県塩原温泉かもしか荘

3. 参加者等

解剖・組織技術員

4. 研修内容

- ・炭酸アンモニウム再注入による遺体及び解剖実習

のホルマリン減量

- ・酵素抗体多重免疫染色法を用いたラットリンパ組織の多変量解析
- ・走査電顕のための観察面の剖出法
- ・注入ポンプを使用する際の処置手順の効率化について
- ・全体討論（実務者の観点から見た環境対策及び方策）
- ・自由討論

5. まとめと感想

現在法律では、ホルムアルデヒドの空气中濃度は、特定作業場では0.25 ppm以下が適用されています。現実には実習中、眼や皮膚の炎症を訴える学生もいます。対策としては、設備の改善が求められるところではありますが、換気の改善等、施設の改修における諸費用は相当かかりますので、発生源からの放散を防ぐという今回の（炭酸アンモニウム再注入による遺体及び解剖実習のホルマリン減量）テーマは解剖・組織技術研究会にふさわしいものでありました。全体討論では、本会研修会ならでの中身の濃い話し合いができたことを喜んでいきます。

平成17年度主任者部会年次大会

第46回放射線管理研修会

木庭 亮二、寺元 浩昭（理学部等部門）、辻村 智隆（医学部等部門）

1. 目的等

平成16年6月に公布された改正放射線障害防止法が平成17年6月1日に施行された。改正法令に対して、大学としての対応が必要であり、全国的な大会が広島市内で行われることから、法令の情報収集や各大学での対応を確認するため参加した。（木庭）

平成17年6月1日に施行された改正放射線障害防止法に対しての、大学としての対応が必要であり、全国的な大会が広島市内で行われることから、法令の情報収集や各大学での対応を確認するため参加した。（寺元）

昨年度から、特に今年度は放射線安全管理分野で大きな動きがあった。それは、昭和32年に制定された放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律（以下「放射線障害防止法」という）が、今までにない大幅な改正があった。更に、大量の放射線によって、

多くの人間が犠牲となった広島・長崎の原爆被ばくから60周年にあたる今年、広島で主任者年次大会（第46回放射線管理研修会）が開催された。今年度は、広島で開催されるに当たって、放射線主任者部会・中国四国支部会が担当することになり、私は実行委員として参加した。また、「広島大学医学部歯学部RI研究共同施設の取組み—管理区域外での下限数量非密封RIの使用について—」と題して、ポスター発表した。（辻村）

2. 期間・場所

期間：平成17年11月17日

場所：広島県民文化センター

3. 参加者等

全国から放射線取扱主任者及び実務管理担当者が参加した（約450名）。広島大学技術センターより他に寺元浩昭技術員が参加。辻村智隆技術長、北川和英技術主任は実行委員として参加。

4. 研修内容

この大会は放射線主任者部会が開催するもので、部会員の情報収集や情報交換の場として、例年、主任者部会年次大会として各地で開催されている。大会での講演やシンポジウム、ポスター発表、各分科会活動報告及び交流会での懇談を通して、放射線安全管理の諸問題について、広い立場から論議し、その具体的対応策について研修することを目的に開催されている。今回の年次大会及び研修会のメインテーマは、「放射線利用の安全性」で、このテーマの趣旨は、「本年が広島・長崎の原爆被曝60周年にあたることから、放射線の危険性について再認識すること」と「大幅な法令改正を受けて、今後の合理的規制と安全性の確保について考えようということ」、更に、放射線の平和利用、安全利用を基本とする放射線利用の原点について改めて考えてもらうことであった。

5. まとめと感想

今後の放射線管理の在り方につき勉強でき、非常に参考になった。今年度より変わった法令の内容を再確認でき、また来年度に定期検査がせまっている当分野にとって定期検査や定期確認について内容の確認もでき、今後の対応を考えることができた。今後また機会があれば参加したいと思っている。（木庭）

当分野では定期検査、定期確認等を来年度に控えて

おり、特に法令改正により新設された定期確認制度に関して、様々な情報、考え方等聞くことが出来た事は大変有意義であった。また、全国各地の放射線施設の主任者や管理者の方々と交流をし、実務上の貴重な情報を得ることもでき、今後の業務に大変に参考になった。(寺元)

この大会に実行委員として参加し、また大盛況裡に終えたこと、更に全国の放射線施設の主任者及び実務担当者の方々との交流もでき、これからの学内業務に大きく影響すると感じている。(辻村)

廃棄物の焼却施設に関する業務にかかる特別教育講習会

坂下 英樹 (工学部等部門)

1. 目的等

平成13年4月に労働安全衛生規則の一部が改正され、事業者は、廃棄物の焼却施設に設置された廃棄物焼却炉、集じん機等設備の保守点検等の業務に従事するものに標記特別教育を行わなければならないことになっているため、今回受講しました。

2. 期間・場所

期間：平成18年11月18日

場所：広島市中区 林業ビル

3. 参加者等：約100名

4. 研修内容

法令に基づく科目と時間数：ダイオキシン類の有害性(0.5時間)、作業の方法及び事故の場合の措置(1.5時間)、作業開始時の設備の点検(0.5時間)、その他ダイオキシン類のばく露の防止に関し必要な事項(0.5時間)、保護具の使用法(1時間)

(受講後、科目等を記録した修了証が交付された。)

5. まとめと感想

ある程度知識があるつもりでしたが、不足していたことが分かりました。特に、保護具の使用法に関しては、これまで使用していた保護具が有効ではなかったことが分かりました。

平成17年度放射線安全管理講習会

辻村 智隆 (医学部等部門)

1. 目的等

近年、放射性同位元素や放射線発生装置の利用、医

療、工業、学術研究、各種の試験研究等広範囲な分野にわたり、その利用形態も社会環境の変化によって多様化してきており、わが国の産業経済の発展及び国民福祉の向上に大きく貢献している。一方、放射線利用分野が広がるにつれて、放射性同位元素等の取扱い及び保管にかかる安全管理の徹底の必要性がある、そのため毎年、講習会が開催されている。

2. 期間・場所

期間：平成17年12月1日

場所：KKR 広島

3. 参加者等

中国四国地区の放射線取扱主任者及び実務担当者、約250名

4. 研修内容

- (1) 最近の放射線安全行政の動向及び放射線障害防止法の施行状況について
- (2) 法改正・立入検査を踏まえた安全管理のポイント
- (3) 定期確認について
- (4) 安全管理の徹底を踏まえた記帳・記録について
- (5) 質疑応答

4. まとめと感想

毎年開催されている講習会で、毎年参加をしているが、今回は特に法令改正の内容であり、改正点の再確認と疑問点の明確化を求めて出席した、今後の業務に参考とすることができた講習会であった。

第20回緊急被ばく医療セミナー

木庭 亮二 (理学部等部門)

1. 目的等

広島大学が第3次被ばく医療機関に指定され、放射性同位元素研究支援分野もそのサポートを行うこととなった。そのため、今後広島においても緊急被ばく医療セミナーが開催される可能性が高く、当分野スタッフもそのサポートを行う必要があるため、今回スタッフとして参加した。

2. 期間・場所

期間：平成17年11月30日～12月2日

(業務のため私は12月1日より参加)

場所：独立行政法人放射線医学総合研究所

3. 参加者等

受講者は20名程度。広島大学技術センターより他に、北川和英技術主任(原爆放射線医科学研究所部門)が

参加。他に広島大学より講師として教職員が多数参加。

4. 研修内容

「実習：汚染患者への対応」及び「机上演習：放射線事故時の医療」にスタッフとして参加。

5. まとめと感想

放射線災害時における各機関の対応や、事故の際の医療機関での対応が把握でき、私が通常行っている業務とは直接的な関連は少ないが非常に勉強になった。

また、当分野においても起こりえる事例（RI 実験中の事故）への対応も実習の中に含まれ、事故時の管理スタッフとしての対応も勉強でき、非常に有意義なセミナーだった。今後広島で開催されるのであればサポートとして参加していきたい。

京都大学大学院工学研究科附属環境安全衛生センター業務研修

清水 高, 坂下 英樹（工学部等部門）

1. 目的等

平成 17 年 10 月より工学部等部門に新設された安全衛生管理技術班として、他大学の安全衛生に関する取り組みについて研修するため、上記センターを訪問いたしました。このセンターは安全衛生管理を主な業務とし、専任の技術職員が 3 名在籍する（教員も定数 3 名、非常勤職員 1 名）こと、また、HP の情報から活発に活動していると考えられたことから研修先として選択しました。

2. 期間・場所

期間：平成 17 年 12 月 9 日

場所：京都大学大学院工学研究科附属環境安全衛生センター

3. 参加者等

先方は環境安全衛生センター所属の技術専門職員 1 名

4. 研修内容

- (1) 安全衛生に関する実施業務について
- (2) 安全衛生に関する各種書類について
- (3) 京都大学桂事業場の安全衛生・環境保全活動について

5. まとめと感想

工学研究科は桂キャンパスに新しく移転したばかりで（一部建設中）、京都大学の安全衛生管理のモデルケースとして安全衛生に関する取り組みが設備面も含め

で非常に強化されていました。専任のスタッフを持ち、安全衛生に対する豊富な予算により、法令遵守以上の様々な高度な施策に前向きに取り組んでいると感じました。来年度には作業環境測定を自前で行うことと、環境 ISO を取得することが決まっているとのことでした。

安全衛生管理技術班として、今後の業務を進める上で有用な情報を多々得ることが出来ましたので、今後の課題として一つ一つ取り組んでいきたいと思えます。

平成 17 年度生理研研究会

痛みの分子メカニズムと治療戦略

柿村順一（医学部等部門）

1. 目的等

この研究会は、痛みをテーマに基礎から臨床に至るまで幅広い分野の研究者が集まり、定期的で開催されているものである。今回、所属する研究室（医学科第 2 生理学）での研究成果を発表すると共に、痛み研究全般の情報を聴講し、業務に必要な知識の修得することを目的とし、参加した。

2. 期間・場所

期間：平成 17 年 12 月 15 日、16 日

場所：生理学研究所 岡崎コンファレンスセンター

3. 参加者等

疼痛分野の大学の研究者、大学院生、技術職員、企業の研究者等

4. 研修内容

「侵害受容性小型 DRG ニューロンにおける Nav1.9 電流の異常増大（“キンドリング”）の誘発メカニズム」というタイトルで 10 分間の口頭発表を行った。また、下記のセッションを視聴した。

- ・末梢での痛み受容機構
- ・脊髄後角でのプロセッシング
- ・各種動物モデルにおける検討
- ・痛みの中枢メカニズム
- ・教育講演

5. まとめと感想

口頭発表における質疑応答を通じ、意義深い討論ができた。さらに非常に有意義な助言も得られた。セッションの聴講では、末梢から中枢に至るまで、最新の研究に触れることができた。今後の業務を遂行していくうえで、今回の研究会で得られた情報を大きく反映

させてゆきたい。

日本原子力研究開発機構

第 277 回放射線防護基礎コース研修

寺元 浩昭（理学部等部門）

1. 目的等

放射線管理業務を行うにあたり、必要な又役に立つ基礎的な知識と専門的な知識や技術、また、原子力一般についての幅広い知識を講義、演習及び実習を通して習得することを目的として受講した。

2. 期間・場所

期間：平成 17 年 11 月 21 日、12 月 16 日

場所：日本原子力研究開発機構 原子力研修センター

3. 参加者等：8 名

4. 研修内容

放射線の基礎（11 単位）、放射線の影響（3 単位）、保健物理（2 単位）、放射線管理計測法（3 単位）、モニタリング概論（1 単位）、作業環境モニタリング（3 単位）、個人モニタリング（2 単位）、環境モニタリング（2 単位）、放射性廃棄物管理（2 単位）、原子力防災（3 単位）、法規（3 単位）、演習（12 単位）、所内見学（2 単位）、実習（33 単位）

5. まとめと感想

長期間の研修で、放射線の基礎から応用まで様々なことを学ぶことができた。基本的な内容は放射線施設の管理者向けのものになっており、管理業務を行っていく上で重要な事柄も非常に多かった。放射線の基礎からしっかりと勉強しなおすことができ、各種測定法などについてもあまり知ることの無かった理論の部分詳しく知ることができた。また、実習や演習などの時間も多かつてあり、非常に有意義であった。他にはあまりなじみの無い原子力に関する講義もあり、放射線に関するより幅広い知識を身につけることができた。

第 6 回高エネルギー加速器研究機構技術職員シンポジウム

勇木 義則（情報メディア教育研究センター等部門）、
辻村 智隆（医学部等部門）

1. 目的等

高エネルギー加速器研究機構（KEK）技術部門連絡会議の主催で、技術職員の更なる技術の向上と活性化

を目的に、平成 18 年 1 月 12 日、13 日に、「第 6 回 KEK 技術職員シンポジウム」が開催された。法人化後 2 年目の今年、国立大学・国立高等専門学校・大学共同利用機関等で、技術職員の業務内容の多様化に対する業務運営体制及び評価、さらに技術職員の資質向上と後継者の育成などについて、改革が実行されている。この時期に、各機関の状況について、情報・意見交換を行い、それぞれの参考に資することを目的に開催された。

2. 期間・場所

期間：平成 18 年 1 月 12 日、13 日

場所：高エネルギー加速器研究機構

3. 参加者等

国立大学・国立高等専門学校・大学共同利用機関等から 77 名。広島大学技術センターから、勇木義則（情報メディア教育研究センター等部門）と辻村智隆（医学部等部門）が出席した。

4. 研修内容

勇木義則が広島大学技術センターの状況報告をした。以下にシンポジウムの内容を示す。

(1) 技術職員の業務内容の多様化に対する運営体制の構築について

(2) 各大学及び研究機関における業務の評価について（組織又はグループに対応するもの）

(3) 資質向上と後継者育成の取組みについて

5. まとめと感想

法人化後 2 年目の今年、かなり国立大学・国立高等専門学校・大学共同利用機関等技術部の組織化が進んでいる。しかし、「業務の評価について」「資質向上と後継者育成の取組みについて」は、各機関とも、まだまだ試行及び模索中であると感じた。

酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習

窪田 浩和、積山 嘉昌（生物圏科学研究科部門）

1. 目的等

附属瀬戸内圏フィールド科学教育センターでは、牧草を貯蔵する気密タワーサイロ、堆肥舎、汚水処理施設等、酸素欠乏・硫化水素発生危険場所がある。作業をするにあたり、酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者が必要となる。

2. 期間・場所

期間：平成 18 年 2 月 1 日～3 日

場所：林業ビル（広島市中区）

3. 参加者等：約 80 人

4. 研修内容

(1) 学科：酸素欠乏症等の病理と症状，酸素欠乏及び硫化水素発生の原因及び防止措置，保護具，事故の場合の退避及び救命手当の方法，災害事例等，関係法令

(2) 実技：救命手当

5. まとめと感想

職務に従事する際に必要になる知識を基本的事項から，実務上にかかわる事項を学ぶことができた．今後の仕事に役立てていきたい．

放射性物質安全輸送講習会

笹谷 晋吾（原爆放射能医学研究所部門）

1. 目的等

近年の国際的なテロ脅威の高まり等を踏まえ，放射性物質等の輸送には安全性向上のため幅広い知識が求められる．現在，放射性物質の輸送に関する国内規則には国際原子力機関（IAEA）輸送規則の技術基準が取り入れられている．このため技術基準についての講習を受講することにより，放射性物質輸送の安全規則の正しい理解の促進を図り，業務に活用する事を目的とする．

2. 期間・場所

期間：平成 18 年 2 月 10 日

場所：広島合同庁舎

3. 参加者等

50 人程度．技術センターより他に理学部等部門の木庭亮二技術員が参加

4. 研修内容

講義等

(1) 放射性物質の基礎知識

(2) 安全輸送法規の解説

(3) 放射性物質安全輸送の手引き

5. まとめと感想

放射性物質の輸送時における輸送物の作成・積付・取扱方法・緊急時の措置等を実際の手順を元に学ぶことができ有益な講習であった．また放射性物質の輸送は一度事故が起こるとその影響は計り知れない．そのため輸送の際は細心の注意をもって行いつつ，万々に備えて常に対策を考えておく必要性を感じた．

第 28 回生理学技術研究会

第 17 回生物学技術研究会合同開催

阿武 久美子，辻村 智隆（医学部等部門），山口 信雄（理学部等部門）

1. 目的等

第 28 回生理学技術研究会（第 17 回生物学技術研究会と合同開催）は，大学及び研究機関等における医学，生物学，工学分野の技術職員が，日常関わっている実験，機器操作及び施設管理などの幅広い技術活動における成果や問題点を発表し，業務遂行上の技術的問題点や些細な疑問点，陰性データの集積，実験施設や機器の管理・運営問題等の討論を通して，研究及び教育活動に寄与するとともに，技術ネットワークの拠点形式を行うことを目的として開催された．更に，本研究会は科学研究補助金（奨励研究）の採択課題報告の場も設け，奨励研究採択者の技術ネットワーク形成も目的としている．

参加技術分野は，「分子生物学・遺伝子工学・胚操作技術」，「生化学分析」，「細胞・組織培養技術」，「顕微鏡技術」，「動物実験技術」，「コンピュータ技術」，「機器開発技術」，「電子，半導体技術」，「施設紹介と運営」，「実験における失敗例・疑問点」，「新技術紹介」で，発表者は原則として医学，生物学，工学に従事する技術職員とされている．

2. 期間・場所

期間：平成 18 年 2 月 16 日，17 日

場所：自然科学研究機構

岡崎コンファレンスセンター

3. 参加者等

参加者 140 名（口頭発表 24 名，ポスター発表 41 名）広島大学技術センターからは，阿武久美子（医学部等部門），山口信雄（理学部等部門）及び辻村智隆（医学部等部門）が出席し，辻村がポスター発表，山口が口頭発表を行なった．

4. 研修内容（参加資料等を用いる）

基礎生物学研究所の上野直人教授による研修講演は，様々な生物から得られる膨大な学術的データを活用するためのバイオインフォマティクスの最前線を，アプリカツメガエルを一例として取り上げ，基礎となる実験の説明やコンピュータを使用した 3 次元モデル，データベースの公開に至るまでの過程を網羅した明快な

講演で、大変刺激を受けた。

また、技術職員の発表の場としては口頭発表とポスターセッションが設けられ、各自の職務を通じて得られた技術・学術的知見を元に、広範な分野で活発な討論が行われた。これらは各自の職場に速やかに還元することができる、極めて実用的な内容であった。

5. まとめと感想

法人化後、全国の組織で技術員のあり方について問われている。生理学研究所では技術員全員に科学研究費補助金「奨励研究」に応募することを義務づけ、採択・不採択にかかわらず積極的に外部評価を取り入れる方向性を示している。生理学技術研究会では「奨励研究採択課題技術シンポジウム」を同時開催している。このことは成果の開示、評価、さらなる技術の習得、という良い循環を生む可能性がある。広島大学技術センターに於いても、「技術員は何を目指すべきか」という問いに対する答えを見つける足掛かりになるかもしれない。(阿武)

生理学・生物学技術研究会では、通常の業務では接点を得ることができない技術職員達が、各自の専門的能力を活かした発表を通じて交流し、新たな人間関係や最も自分に必要な専門的知識を効率的に得ることができる。さらにこの活力を各自の職場に還元することで、良い循環機構が構築されている。このような効果を得ることができる研究会への積極的な参加を、他の技術職員にも推奨したい。中四国の技術職員による研究会があれば、類似の効果が期待できると考える。科研費の強制応募に関しては、現状では賛成できない。採択された場合のバックアップ体制が全く存在しないためである。現に業務時間内での活動が認められず、本人の肉体的・精神的犠牲が過分に必要なケースが他大学でも多々存在する。従って現状での応募は自由意志に基づくべきであり、強制的な応募を求めるのであれば、バックアップ体制を整えることが前提である。外部評価の基準として捉えることは可能だが、安易に適用することは望ましくない。(山口)

昨年に続き出席した今回は、放射線施設の法令改正の対応について発表することと情報収集を目的に出席した。全国の放射線施設は、昨年6月の法令改正の対応について検討している模様で、ポスター発表時には、細かい部分の質問が多く、懇親会の場においても質問

があった。全国の見本施設になれば幸いである。更に、今回は「技術職員とは何なのか」を考えさせられた。言うまでもないが、教員、事務職員にない技術専門性を研究・教育の支援に出せるか、また出せる機会を、いかに作れるかを感じた。(辻村)

McAfee SCM Appliance 運用セミナー

三原 修(工学部等部門), 中川 敦(情報メディア教育研究センター等部門)

1. はじめに

近年、スパムメールの大量送信やフィッシングによる不正誘導・情報搾取による被害が拡大している。このことは、企業等でインターネットやeメールを利用する場合、単に業務効率を低下させるだけではなく、個人情報漏洩、金銭的被害、さらには自らが知らぬうちに攻撃者となって社会的信用を失墜させるといった、深刻な2次の被害をもたらす要因である。このような問題に対応するソリューションとその実例を学ぶため、マカフィー(McAfee)株式会社が主催する SCM Appliance 運用セミナーに参加した。

2. 期間・場所

期間：平成18年2月20日

場所：広島グランドインテリジェントホテル

3. 参加者等：30名程度

4. 研修内容

- ・スパム、フィッシングの現状
- ・対策における課題と求められるソリューション
- ・Secure Content Management (SCM) Appliance の紹介
- ・スパム・フィッシング対策機能
- ・McAfee Quarantine Manager (MQM) の概要
- ・デモンストレーション

5. まとめと感想

スパムやフィッシングによる攻撃の仕組みとその流れ、攻撃による被害の深刻さとその対応策について理解することができたため、有意義なものであった。なお、スパムメールの判定やその隔離・破棄における優れた機能を有し、管理者にとっても負荷を軽減できることから、広島大学(全学または各部局等)においても、マカフィー社の上記製品の導入を検討してみても良いのでは、と感じた。

第 17 回分子科学研究所技術研究会

石飛 義明 (理学部等部門), 野口 靖祐, 石原 正文 (工学部等部門)

1. 目的等

分子科学研究所技術研究会では, 大学, 高等専門学校及び大学共同利用機関等の技術者が, 日常業務で携わっている実験装置等の開発・製作・維持管理の広範な技術的研究支援活動について発表されている。発表内容は通常の学会等とは異なり, 日常業務から生まれた創意工夫・失敗談等が紹介され, 技術者の交流及び情報交換により技術向上を図ることを目的として開催されている。

2. 期間・場所

期間: 平成 18 年 3 月 2 日, 3 日

場所: 自然科学研究機構

岡崎コンファレンスセンター

3. 参加者等

参加者 320 名 (大学, 高等専門学校及び大学共同利用機関等 45 機関から参加があった。) 広島大学技術センターからは, 石原正文・野口靖祐 (工学部等部門 設計工作系技術班) 石飛義明 (理学部等部門) が出席した。

4. 研修内容

分子科学研究所技術課長加藤清則氏の開会の挨拶で始まり, 研究会日程通り行われた。口頭発表・ポスターセッションにおいて技術職員の意見交換を通じて, 各機関の技術職員個々のレベルアップを目的とした内容であった。各分野の分科会で行われ, 第 1 分科会に参加した。

- ・第 1 分科会: 機械・ガラス工作技術 (機械・ガラス・セラミック工作技術)
 - ・第 2 分科会: 回路技術 (計測・制御技術, アナログ・デジタル信号処理技術)
 - ・第 3 分科会: 極低温技術 (低温機器装置の維持・管理, 低温技術)
 - ・第 4 分科会: 計算機技術 (システム運用管理, 情報処理, 通信技術)
 - ・第 5 分科会: 装置技術 (実験装置の設計, 運転保守, 研究施設関連技術)
- (5 分野で, 口頭発表 61 名・ポスターセッション 47 名であった。)

5. まとめと感想

全国大会で大学の技術職員と大学共同利用機関の技術職員での発表会は, レベルの高いものや自分の業務に関連する発表もあり大変参考になった。また, 発表に対する活発な質疑応答で参加者の熱意の高さを感じ技術職員のこれからの姿勢が伺える研究会となった。機器・分析技術研究会のポスターを配布・掲示し多数の参加者に対して PR もできた。運営に関しては, 円滑な運営が行われており発表の質疑応答の時間配分等が参考になった。今回の技術研究会で得たことを今後の業務・研修会等に生かしていきたいと思う。

平成 17 年度 (第 1 回) 実験・実習技術研究会

下岡 丈次 (先端物質科学研究科部門), 勇木 義則 (情報メディア教育研究センター等部門)

1. 目的等

本研究会は, 従来 2 年に 1 回開催されている総合技術研究会 (本年 3 月に大阪大学で開催) の一技術分野 (教育実験・演習・実習指導技術研究会) を初めて単独開催としたもので, 大学・高等専門学校及び大学共同利用機関等の多くの技術職員が関わっている, 「実験・実習・演習」, 「ものづくり」, 「地域貢献事業」などにおける広範囲な技術的支援活動について発表する研究会である。特に, 技術職員の技術向上及び交流を図ることを目的とし, 発表内容も通常の学会等とは異なり, 日頃の技術業務における技術開発の成果のみならず, 日常業務から生まれた創意工夫, 失敗談なども重視した広く参加者全員で討論できるような実践的研究会と位置づけられている。

2. 期間・場所

期間: 2006 年 3 月 2 日, 3 日

場所: 鳥取大学工学部

3. 参加者等

大学, 高等専門学校, 大学共同利用機関等の技術職員, 240 名 (口頭発表 53 名, ポスター発表 48 名)
広大参加者: 岩谷秀秋 (工学部等部門), 谷口 弘 (先端物質科学研究科部門), 下岡丈次 (先端物質科学研究科部門), 輝平盛重 (工学部等部門), 勇木義則 (情報メディア教育研究センター等部門), 藤高 仁 (理学部等部門), 津村敏則 (大学院工学研究科)

4. 研修内容

下岡技術班長が「広島大学工学部第2類電気工学基礎実験の1課題を担当して」と題して、電気系学生のための基礎実験に関する一課題について、改訂の意義、実験の目的、現状などの口頭発表を、また谷口技術長は「ものづくり3点」と題して「半導体加工用基板ホルダーの製作」「テラヘルツ電磁波測定系用窒素ボックスの製作」「クリーンルームで使用する液体窒素タンクの屋外運搬車の製作」についてポスター発表を行った。いずれも本研究会の主旨どおりの内容で活発な質疑応答となった。岩谷技術統括は、発表会場では座長としてスムーズなプログラム進行を、懇親会においては、18年度広大開催の機器・分析研究会紹介を行った。

5. まとめと感想

報告者は、本研究会が中国地方で初の全国規模研究会の開催であることに着目し、その経緯、背景などについて実行委員（裏方）からの情報収集を主目的に参加した。機器・分析技術研究会実行委員の視点で、本研究会への感想を報告する。

－ 中国・四国地区初の全国レベル技術研究会開催に思う －

(1) 学内アピールは、大成功

主催大学の学長、副学長、技術部長の挨拶の端々に、技術職員の必要性、技術力への新たな認識が強調されていた。「分厚い研究報告集」、「教員相当の実習報告内容」、「全国からの大人数の参加者」が主なキーワードの内容だったが、学内の先生方に、十分なアピールができたことと思う。学内トップへの働きかけは、実行委員長の話や実行委員の学長表彰の話から、相当な尽力があったものと推測する。広島大学においても、技術センターが主催する初めての全国レベルの

研究会開催であることを意識・強調して、大学に向けて更にアピールしていくことが得策かと考える。

(2) 前向きな実行委員が成功のカギ

母体である総合技術研究会の運営協議会において、本研究会の必要性が議論される中、「是非、鳥取大学での開催を」と手を挙げた鳥取大学の技術職員の行動が第1回開催に結びついたと伺っている。前向きな技術職員を中心とした各実行委員の熱意が、口頭発表、ポスター発表、懇親会を通して随所に感じられ、活発な質疑応答、情報交換がなされた活気ある研究会だったと思う。

(3) 地域貢献発表は、インパクトあり

地域貢献に関する発表が印象に残った。小・中・高などでの実験・講習についての自信と意気込みのある発表に接し、地域へ貢献の本分のみならず、技術職員のやる気、スキルアップにつながる有益な技術支援業務と感じた。広大技術センターも更に強化していくべき業務分野と考える。

(4) ポスター発表の意義

発表内容の多くは、筆者の専門分野（情報メディア分野）外だったが、ポスター発表においては、他分野であっても具体的な内容の意見交換の中で、情報技術のアドバイスができる展開となるなど有意義なものだった。実務を担う技術職員にとって、深い専門知識の追求も重要かと思うが、学生に、教員にあるいは地域に対し、どう技術支援していくのか大きく捉えた場合、分野を問わず発表者との意見交換がしやすいポスター発表空間の中に、新しいアイデアの意外なヒントが見出せるのではとの思いを再認識した。本学開催予定の機器・分析技術研究会において、ポスター発表の重要性も再確認頂きたいと思う。